



# Oracle® Data Relationship Management

リリース 11.1.2.3

## New Features

**ORACLE**  
ENTERPRISE PERFORMANCE  
MANAGEMENT SYSTEM

### 目次

Data Relationship Management 11.1.2.3 の新機能 .....	2
Apple モバイル・デバイスでのドキュメントの動作保証 .....	4
以前のリリースで導入された機能 .....	4

# Data Relationship Management 11.1.2.3 の新機能

## Data Relationship Governance

新しい Oracle Data Relationship Governance モジュールでは、ガバナンス・ワークフローを採用しています。これを使用すると、繰返し可能なビジネス・プロセスを使用して、データ・スチュワードがデータ変更の入力、検証および承認を管理できるようになり、質の高いデータ、ポリシー準拠、ユーザーのコラボレーション、およびビジネス・コミュニティ全体での意識の変化を実現できます。

この機能のハイライト:

- ワークフロー・モデル—Oracle Data Relationship Management のデータに対する一連の変更の管理に伴うユーザー・タスク、ワークフローのステージおよびデータのタイプを制御するために使用されます。
- ワークフロー要求—変更または修正を開始するために使用されます。開始した変更または修正は、他のユーザーがガバナンス・ワークフローを使用して、完了、承認、エンリッチおよびコミットします。
- ガバナンス・ワークリスト—変更要求や改善要求を処理する中央の場所です。ガバナンス・ユーザーは、ワークリストから変更要求を送信したり、ユーザー・グループに割り当てられた要求の確認や参加を行います。
- アラートと通知—ガバナンス・ユーザーとデータ・マネージャに、関連する要求についての Data Relationship Management アラートおよび電子メール通知を送信します。要求のワークフロー・モデルのステージ構成は、ユーザーに特定のステージで実行されているアクティビティを通知するか、およびどのユーザーに通知するかを制御します。
- ワークフロー・パス—要求に対して完了するワークフロー・ステージ、要求のアクティブ・ステージ、前のステージの完了ステータス、およびアクティブ・ステージの承認数を識別します。ワークフロー・パスを使用すると、要求にかかる時間、関連する承認の数、および承認プロセス全体における要求の位置を、参加しているユーザーが把握できます。
- ワークフロー・タグ—ガバナンス・ユーザーが要求の完了期日を割り当てたり、要求を緊急としてマークしたりできます。

詳細は、Oracle Data Relationship Management User's Guide のガバナンス・ワークフローに関する項を参照してください。

## 動的スクリプト

動的スクリプトにより、Data Relationship Management 管理者は JavaScript を使用して、派生プロパティと検証のビジネス・ロジックを開発することができます。動的スクリプトは、標準のスクリプト言語を使用しており、式よりも堅牢でパフォーマンスに優れた代替手段です。スクリプトでは、複数の文や変数、インライン・コメントを使用することで、編成がわかりやすくなり、ロジックの複雑さを軽減できます。また、動的スクリプトでは、ループや正規表現などの高度な概念もサポートされています。

詳細は、Oracle Data Relationship Management Administrator's Guide の動的スクリプトに関する章を参照してください。

## データベース・テーブルからのインポート

リレーショナル・データベースへの外部接続を使用して、データベース・テーブルから Data Relationship Management にデータをインポートできます。インポート・プロファイルにより、単一のデータベースのテーブルからデータをソーシングできます。インポート・プロファイルの各セクションを単一のデータベース・テーブルにマップできます。クエリー・フィルタを構成すると、ソース・データベース・テーブルからデータのサブセットをインポートできます。

## オブジェクト・アクセス・グループ

オブジェクト・アクセス・グループを使用すると、メタデータ・オブジェクトの編成、アクセスおよび管理をカスタム・ユーザー・グループごとにまとめて行うことができます。これまで提供されていたオブジェクト・アクセス・レベル(ユーザー、標準、システム)は今後、コア・オブジェクト・アクセス・グループとして提供されます。カスタム・オブジェクト・アクセス・グループは、アクセス・マネージャが作成およびプロビジョニングできます。ユーザーには、各カスタム・オブジェクト・アクセス・グループに対する実行権限または管理権限を割り当てることができます。

詳細は、Oracle Data Relationship Management Administrator's Guide のオブジェクト・アクセス・グループの管理に関する章を参照してください。

## ノード・プロパティの階層制約

階層制約を使用すると、ノード・データ型のプロパティ値を更新する際に、表示および選択の対象とする階層とノードを制限できます。階層制約は、ノード・データ型を使用するプロパティ定義のオプションの構成です。階層制約機能では、階層制約を割り当てる前に構成する必要がある階層グループおよび階層グループ・プロパティを使用します。

詳細は、Oracle Data Relationship Management Administrator's Guide の階層制約の使用に関する項を参照してください。

## ジョブ管理

ジョブ管理により、長時間実行される操作(ジョブ)とそれにより生成される結果を、より強力に制御し、可視化することができます。操作をジョブとして実行すると、ユーザーは、プロセスの実行中に別のタスクを実行でき、そのユーザーが次にアクセスしたときには、その操作のステータスや任意の結果にアクセスできるようになります。

詳細は、Oracle Data Relationship Management User's Guide のジョブ管理に関する項を参照してください。

## ローカライズされたドキュメント

国際組織のグローバリゼーション要件に対応するため、このリリースの Oracle Data Relationship Management ドキュメントは、次のように翻訳されています:

ガイド名	翻訳言語
Oracle Data Relationship Management Administrator's Guide	フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、簡体字中国語
Oracle Data Relationship Management User's Guide	フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、簡体字中国語
Oracle Data Relationship Management Installation Guide	フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、簡体字中国語
Oracle Data Relationship Management New Features	日本語
Oracle Data Relationship Management Readme	日本語

## Apple モバイル・デバイスでのドキュメントの動作保証

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、2つのモバイル形式で利用できるようになりました。1つは既存の.mobi ファイル、もう1つは.epub ファイルです。EPM System の ePub ドキュメント・ファイルは、すべての Apple モバイル・デバイス(iPad、iPhone および iPod Touch)でサポートされています。ePub ファイルは多くのモバイル・デバイスでサポートされていますが、動作保証されているのは Apple モバイル・デバイス上のみです。その他のデバイスも今後動作保証される予定です。

## 以前のリリースで導入された機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 からアップグレードする場合は、累積機能概要ツールを使用して、これらのリリースの間に追加された新機能のリストを確認してください。このツールを使用すると、現行の製品、現行のリリース・バージョン、およびターゲットとなる実装リリース・バージョンを特定できます。1回のクリックで、現行リリースからターゲット・リリースまでの間に開発された製品機能の概略がカスタマイズされてすばやく生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>



## 著作権情報

Data Relationship Management New Features, 11.1.2.3

Copyright © 2000, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。